

一心太助の天秤棒

～前の籠には責任を、後の籠には信頼を、
肩に担いで売り歩く～



越谷市議員 白川 ひでつぐ
シリーズNO 70

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来16年間、毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝、夜の駅立ちは、通算3200日を超え5期目になりました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前での様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通して暮らしの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

埼玉県参議院補選は誰に投票？

今朝の駅立ちは、何時もの様に午前4時過ぎには起床して、妻の運転でせんげん台駅東口に午前5時前に到着。直ぐに街宣用具の設置の後、駅前清掃の作業を終えて市政レポートの配布を開始した。

今朝から一心太助の天秤棒“駅頭は小さなドラマの連続だ”の最新号第69号の配布をスタートした。

清掃の後マイクのスイッチを入れようとした午前5時過ぎに、馴染みの中年女性から今回の選挙（10月27日投票の参議院埼玉県選挙区の補欠選挙）は誰に投票したらいいですか、と尋ねられた。はい、勿論上田候補をお願いします、と返答。やっぱりそうですよね、N国党ではダメですね、と応答されエスカレーターに向かわれた。

同じお話を午前8時40分過ぎ駅頭を終了して街宣用具を片付けていたら、旧知の客待ちのタクシー運転手さんから、声が掛かった。

上田さんをお願いします。恐らく低投票率になりそうですから、必ず投票に行ってくださいね、投票をするという行動がないと、選挙後の政治状況に対して無関心になり、当事者意識が希薄になりますから、と返事をした。

すると、分かりました、うちは5票あるから、皆投票するようにするから、との応答だった。

えー5票もあるんですか、しっかりお願いします、と付言した。

午前6時30分過ぎ、馴染みの中年女性から小さなのし袋に入った1000円のカンパを頂いた。この女性は毎回同額をキッチンとのし袋の入れて頂いているので、本当に毎回感謝している。

同じ様に春日部市に在住されている30代のサラリーマンの方からも、毎回1000円のカンパをカンパ箱に投入して頂いている。

各駅には、必ず定期的にカンパを頂く市民の方がおられるが、その気持ちに十分応えきっているのだろうか、と何時も自問自答している。

午前7時過ぎには、やはり馴染みの30代のサラリーマンの方からペットボトルを差し入れて頂いた。この男性も毎回の事だ。

ペットボトルの差し入れに関しては、早朝からせんげん台駅東口周辺の掃除を毎日続けておられる高齢男性から、これも毎回しかも2本も頂いている。

時には気づかない内に近くに置いて帰宅される事もあり、恐縮している。

午前7時40分頃ピンクのビブスを着た6人の女性が駅前に集まって何やら盛んに打ち合せをしておられたので、何をしているのかその内のお一人に聞いてみた。すると北陽中学校のPTAの方で、今日は北陽中学校の合唱発表会を南越谷のサンシティのホールで開催するため、生徒達の誘導をしている、との事だった。

あーそうか、それで先ほどから集団で男女の中学生が階段を昇って行くのはそのためか、と納得した。

この中学校は私の子ども達の母校でもあり、全校生徒による合唱に力を注いでおり、毎年入学式や卒業式では素晴らしい合唱を聞かせて頂いている。

その後、先生がお二人引率のため近づいて来られたので、大変ですね、ご苦労様です、と声を掛けたら、迷惑をかけてすみません、と頭を下げられた。いえいえ、迷惑だなんて、頑張ってください、と応答した。

(10月21日)

3日間連続で駅立ちは中止、県外出張のため

23日から5日間連続して、愛知県への行政調査と大阪での研修会参加のため、この間の駅立ちは中止した。

(裏へ)



越谷市議会建設常任委員会の行政調査は、23日と24日の二日間で、議員8名と建設部長と都市整備部長、議会事務局2名の合計12名が参加した。まず初日は愛知県岡崎市の「乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画」と「下水道事業の公営企業会計移行」の2つのテーマを。

二日目は、静岡県沼津市の「沼津駅周辺総合整備事業」を調査して来た。

23日は、午前9時に東京駅新幹線中央乗降口に集合のため、午前7時30分過ぎにはせんげん台駅を出発した。ところが西新井駅手前まで来て、電車が停止した。車内アナウンスによれば事故のための停車だと、何度もお知らせがあったものの一向に動く気配がない。

なんと30分近くたってやっと動き出した。

後程分かったのだが、通勤客のカバンが列車に引っ掛かり死亡されたとの事。このためやっと北千住駅から上野駅にJRで到着したら、今度はJRが都内の地震のため運行が乱れており時間通りに出発せずこれまた、幾つものホームをうろうろして、東京駅の集合時間ギリギリに間に合うことになった。

なんとも朝からひやひやする初日となった。

24日夕方帰宅したが、25日早朝から3日間大阪府堺市で開催された「大阪で考える健康で文化的な最低限度の生活」をメインテーマとする講演会と分科会に参加した。会場は大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス。主催は全国公的扶助研究会で、毎年1度の全国の都市で開催されており、毎回参加して来た。

1日目が終わり、大阪地下鉄御堂筋線の公園前駅で下車して徒歩5分で予約していたホテルに午後6時過ぎに到着した。

夕食を採るためホテルを出で驚いてしまった。広い歩道には、アジア系の観光客がひしめき、大阪名物串揚げやお好み焼きや居酒屋が密集している歓楽街で、通天閣が目に見える場所だった。大阪には何度か訪れていたが、あの通天閣を見るのは初めて。興味が湧いてきて周辺を歩き回ったのだが、大きな声で大阪弁が飛び交い、泥酔したおっちゃんが安酒屋でたむろしている様にイメージしていた大阪の印象とは全く違っていた。賑やかな居酒屋から少し離れたもつ焼きの店に入って食事をしたが、

実に静かで店主と奥様で対応してくれたが、大阪弁ではなく、所謂標準語で話し掛けて頂いた。

客引きもいないし、どの店も飲み客であふれており、24時間営業のお好み焼きや焼きそば店の100人も入るのではないかと、思えるほどの大きな店も散見された。路上にごみもない。

また、立飲みの10席もない小さな居酒屋が何軒もあり、確かに高齢男性がビールを飲んではいたが、喧噪的な雰囲気はなく、実にフレンドリーな空気感が漂っていた。中には一人で飲んでいる若い女性も見受けられた。

次の日朝食を採るため、午前8時前から昨日と同じ様に歓楽街を散策してみたが、土曜日なのに午前6時から開店している喫茶店（モーニングを注文したがコーヒーとパンとゆで卵がついて350円）やこの時間帯に開店準備のため、掃除や商品を陳列する小さな洋品店の高齢店主を見かけた。（懐かしいレスカや冷コーの表示もあり、サンパツ屋の看板も）

その中で、うどん店が2軒営業しており、何と、かけうどんが1杯170円、きつねうどんが230円と激安。このためモーニングを食べたにも拘わらずうどんも食べてみた。安いだけでなく美味しい。最終日（日曜日）にはもう一軒のうどん店（ここは立ち食い席は7席位しかなく、男性店主一人で切り盛りしていた）でやはりかけうどん（同じ様に170円）を注文したが、日曜日のこの時間帯なのに並んで順番を外で待ってからの注文となった。

値段は東京よりも2割以上も安く、人々の会話や雰囲気は、東京で言えば浅草を彷彿させるような町であり、この町で暮らす庶民の気風やエネルギーを十分感じるとる事が出来た事は、講演会受講以上の収穫となった。

その大学での分科会で大阪からの参加者の方から、大阪では様々な施設がボランティアで食事を必要とする市民に無料で提供することが当たり前となっている。提供する側もされる側も上下の関係がないフラットな付き合いが普通に出来る地域であり、特に通天閣の近くには西成地区（低所得者の方が暮らすドヤ街とかつて呼ばれた地域）があり、そんな雰囲気が強い土地柄です、と教えて頂いた。

生活保護や社会的な支援の制度や担い手の重要性が増々必要とされているが、そんな制度や組織がなくても、そこで暮らす人々が地域の中で自然に助け合い、フラットな関係を持続出来る行く生き方こそが、原点なのだと感じさせられるものだった。（10月27日）